

平成27年（2015年）3月20日発行

学位取得 おめでとうございます

卒業、修了おめでとう。この言葉には、例年とは違う、とても重い意味が込められています。

今年度の学部卒業生の大半は、平成23年4月の入学です。その直前、3月11日に東日本大震災、続けて福島原発事故が起きました。震災直後から、発事故が起きました。震災直後から、学生への安否確認に努めました。在学生

卒業おめでとう

大震災をこえて



学長
波多野 純

ばかりでなく、4月に入学予定の学生も含め、すべての学生の無事を確認できたときは、本当に安堵いたしました。しかし、家族を失った学生や、自宅が被害に遭った学生はおりました。

さまざまな困難のなか、工友会・後援会をはじめ、海外の提携大学などからも心温まるご支援をいただきまし

た。それが大きな支えとなったことを、
今も忘れません。

入学式は、2週間遅れて、4月17日に挙行いたしました。皆さんは、どのような気持ちで、入学式に臨まれましたか。家族が大変なときに、自分だけ故郷を離れ大学に通っているのだらうか。誠実な人柄であればあるほど、悩

ちの苦労は被災地とは比べものになりません。日本中のみんなが大変な思いをしている、そのような実感を共有することで、前に進むことができました。私は、アジアにあって、世界にあって、被災地にあって、「君がいてくれてよかった」と感謝される、現場のプロジェクトリダーを目指して欲しい、と機会があるごとに伝えてきました。

君が成し遂げた仕事の価値は、規模や経済効果の大小では決まりません。本当に必要なのに、本当に困っている人に、君の技術や製品、サービスが持続的に届いたかが、重要です。

自然災害ばかりでなく、さまざまな苦難が、日々押し寄せてくる世界に、私たちは生きています。被災地の辛苦を自分のものとして受け止めた共有感を忘れず、日本工業大学で培った工学の技と心を大切に、がんばってください。心から期待しています。

みなさん、学位取得、おめでとございます。そして、ご家族のみな様に、心よりお祝い申し上げます。

今、みなさんは工学を修めたひとりの人間として歩み出していきます。社会に出れば、諸君には様々な場面での対応が求められます。そのとき、一人ひとりの力が問われてきます。これが、

より深く、より広く
力をつけていこう



理事長
柳澤 章

みなさんの「明日」への成長の出発点です。

その出発地点は、生産の現場かもしれないし、開発、セールの第一線かもしれない。あるいは、工学・技術とは関係の少ない分野ということもあるでしょう。いずれであっても、大きく成長していくヒントとチャンスが、

それぞれの現場にはふんだんにあるのです。それをキャッチして「明日」への成長につなげてください。

そのためには「探究心」と「好奇心」とを、オフの時間も、いつも携帯していただきたい。

探究心は、好きなことを追求して、より深い知識や洞察力をつけていくこ

と。これはハードルは高くないかもしれません。

チャレンジしていただきたいのは、今まで全く目を向けなかった興味のなかったことに、敢えて食いついて好奇心を広げること。

その手掛かりに、例えば、知らない分野の会社就職した友だちに、その仕

事の内容について根掘り葉掘り聞いてみるのもいいでしょう。それは「質問力」の訓練でもあります。好奇心、探究心と質問力は、とても近いものといえます。情報源が多彩になれば、上司の話を理解力も上がるかもしれません。知識というものは、賞味期限がどんどん短くなってきています。社会人として「明日」をつかみ続けるには、自分自身がたえずフレッシュであってこそいいえます。

さて、大学は2年後の2017年に50周年を迎えます。みなさんには半世紀近くもの層の厚い先輩方がいるのです。現場での実践力を大切にする校風は連綿と受け継がれてきました。みなさんの財産となって備わっていると確信しています。

めまぐるしく変化する時代に、より深く、より広く力をつけ、プロフェッショナルとして大いに活躍することを祈念し、私からのお祝いいたします。

第6回エコ大学ランキング

最高ランク「5つ星エコ大学」受賞

エネルギー・CO₂、廃棄物・資源循環で高評価

1月30日(金)、市ヶ谷・JICA地球
広場にてエコ・リーグ主催「第6回エ
コ大学ランキング」の表彰式が行われ、
表彰状と盾が柳澤理事長と学生環境推
進委員会の鈴木悠将委員長に授与され



表彰式には柳澤理事長(下中央)、鈴木委員長(下右)を含む5名が出席

環境活動」の報告があり、本学は共通教育系の佐藤杉弥教授による「エコ・ミュージアム（キャンパス丸ごと環境博物館）」を中心としたコミュニケーション活動や学生環境推進委員会が行っている「リサイクルショップ」「森づくりボランティア活動」などを紹介した。その後、受賞大学との交流、環境活動・研究などの情報交換会を行い、盛会裏に閉会した。

詳しくは全国
青年環境連盟
(エコ・リーグ)
URLを参照いた
だきたい。

エコ大学ランキング公式WEBサイト <http://ccc.eco-2000.net/eco-campus/ranking6>

専門職大学院だより

個人の力を活用するイノベーションの時代の到来

大学院技術経営研究科・教授 西尾 好司

企業がサービスや製品を開発する時に、ユーザ、顧客や消費者（以下ユーザ）の声に十分耳を傾け、行動を観察する必要があることは、これまでも言われてきました。

を増進させる様々なサービスも誕生しています。インターネットが、分散化されていた個人レベルの活動をつなぐことで新たなインベシジョンを可能にしています。

という活動です。10年ほど前からEUや欧州の各国政府が積極的に支援を開始し、欧州以外にも拡大し世界で370件のプロジェクトがあります。このリビングラボには、①医療 インフラ、観光など多岐にわたります。

企業は、自前で新しい価値を創造することが大変困難となり、イノベーションの資源やプロセッシングの一部を解放し、個人を

ユーザの行動や考えから、いかにサービスや製品に関する洞察を得るかが成功の鍵を握ることが多いからです。現在、イノベーションが世界中の様々な所で生まれるようになり、この担い手が個人の場合も多くなっています。そして、個人レベルのイノベーション能力

このようなイノベーションの民主化と呼べるような状況が到来する中で、企業は、個人レベルの活動を積極的に取り入れないといけなくなっています。ここで1つ紹介したいのは、ユーザ・市民が個人レベルでサービスや製品の開発者と共創する「リビングラボ」と

ユーザ・市民が企業などとの共創、②ユーザがプロトタイプなどを実際の利用環境で使い、その行動を理解・洞察する活動、③ユーザ・市民や企業、自治体、大学など多様な関係者が参加するオープンイノベーション、というコンセプトがあります。その対象はICT、含む外部の様々な関係者と共創しなければならなくなりました。そのためにはユーザ・市民とのコミュニケーションや一緒に活動していくための意識改革やマネジメントスキルが求められています。リビングラボは、変革促進の方法としても活用されています。

機械工学科

平成
二十六年度
卒業生一覧
3月20日付
確定者

創造システム工学科

ものづくり環境学科

電気電子工学科

情報工学科

平成26年度 学長賞受賞者

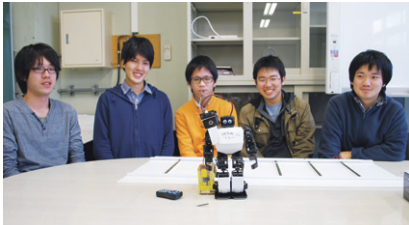
先の選考委員会を経て、平成26年度の学長賞の対象学生が決定した。本賞は毎年優秀な卒業生に対し授与され、今年度も学部生15名、大学院生4名が受賞した。

工学部

学 科	氏 名	出身校
機械工学科		
ものづくり環境学科		
創造システム工学科		
電気電子工学科		
情報工学科		
建築学科		
生活環境デザイン学科		

大学院

環境共生システム学専攻	
機械システム工学専攻	
電子情報メディア工学専攻	
建築デザイン学専攻	



マイコン応用回路工房の活動

本年度のカレッジマイスターエクセレントには32名が認定され、学位記授与式において学長から認定証とゴールドメダルが贈られる。カレッジマイスタープライマリーは39名が認定され、4月の各学科のオリエンテーションにおいて認定証が授与される。ものづくりの実現力に秀でたカレッジマイスターエクセレントの称号を獲得した諸君は、それぞれの活動の場

において、活躍が期待されている。カレッジマイスタープライマリーの称号を獲得した学生諸君は、本学において他の学生のリーダーとしての益々の活躍が期待される。

■エクセレント
機械加工工房（6名）、型技術工房（1名）、フオーミュラ工房（6名）、モノ創りデザイン（6名）

■プライマリー
フィジカルコンピューティング工房（5名）、物理体感工房（7名）、ものづくり入門工房（27名）

カレッジマイスターに71名を認定
リーダーとしての活躍を期待

生活環境デザイン学科

建築学科

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

●博士後期課程

宮代キャンパス学位記授与式 3月20日（金）

大学院技術経営研究科修了生（予定）

●専門職学位課程

神田キャンパス学位記授与式 3月21日（土）

最近の光エコ技術

1月17日(土)、本学学友会館において環境特別講演会が『最近の光エコ技術』LEDから人工光合成まで』をテーマに開催された。本講演会は本学の環境教育と一般普及を目的として毎年開催している。

講師に理化学研究所の専任研究員である大澤正久氏を迎え、学生・教職員を中心に一般も含め約170名が聴講した。波多野学長の挨拶、趣旨説明と本学の環境教育の概要紹介に引続き講演が行われた。

昨年は青色LEDで日本人のノーベル賞受賞があり、本年は『国際光年』にも選定されているが、大澤氏の研究も光に関わり深いもので、分子化学の立場から光触媒や有機発光材料の開発に取り組んでいる。今回は、大気中の二酸化炭素を固定する環境技術にもつながる人工光合成研究の現状や、LEDよりさらに省エネルギーが期待されている有機発光ダイオード(OLED)等の原理と可能性を中心に話された。最前線のご自身の研究も含め、やや高度な内容も

大澤氏の研究も光に関わり深いもので、分子化学の立場から光触媒や有機発光材料の開発に取り組んでいる。今回は、大気中の二酸化炭素を固定する環境技術にもつながる人工光合成研究の現状や、LEDよりさらに省エネルギーが期待されている有機発光ダイオード(OLED)等の原理と可能性を中心に話された。最前線のご自身の研究も含め、やや高度な内容も



講師の大澤氏

博士号取得おめでとーございます

留学生別科修了式 4力国・7名が出席

式は2月28日(土)に学友会館で執り行われ、修了生3名(1名欠席)、中期進学成績優秀者4名が出席した。出身国は中国、台湾、ベトナム、タイ。修了生たちは修了証書を授与され、波多野学長、柳澤理事長より激励の告辞を受けた。



修了証書授与

日工大生寄り道マップ 完成

宮代キャンパス周辺の飲食店や美容院など44店がマップ上で紹介されたミニ情報誌で、学生限定の割引クーポンも付属する。宮代町の商工業活性化を目的としたワークショップによって企画、制作された。本学の有志学生も店舗情報の収集などに協力している。

マップは昨年末から在學生に配布されており、今春入学の新入生にとっても、新生活の情報源として活用されることが期待される。



たたんだ状態でA6サイズ

学長と学生自治会代表との懇親昼食会

1月21日(水)、毎年恒例となっている学長と次年度の学生自治会代表との懇親昼食会が開催された。

波多野学長と竹内学生支援部長、鈴木学生支援課長と中央執行委員会の大川委員長の他、各委員長5名、体育会会長及び文化団体連合会会長が出席し、自己紹介や日頃感じていること、学長の委員会やクラブ活動などについての考え等、気兼ねない話し合いが行われた。最後に、学長から「学長室には気軽に来てもらいたい」との言葉があり、終始和やかな雰囲気であった。



受けた。式後には祝賀会が開催され、恩師や在校生から祝福を受けた。

彼らのうち4名は本学学部及び大学院に進学編入し、2名は研究生として本学の大学院進学を希望している。タイ出身のウィラダーさんは「この一年で日本語を理解でき、先生方に変感謝している。大学院進学を目指し、帰国後は父の会社を継ぎたい」と意欲的に語っていた。

梅花香る中
天満宮例祭を挙
行

本年も日本工業大学天満宮例祭が2月21日(土)、11時より天神門横の杜前において厳粛に執り行われた。



祝詞奏上

教職員組合事務所竣工
徐准教授が設計

昭和49年に建設された老朽化が進んでいた教職員組合事務所(W52棟)が、約40年の時を経て新たに建設された。竣工式は1月9日(金)、春日部八幡神社の小島神職により、柳澤理事長、波多野学長、教職員組合の服部執行委員長ほか関係者一同と、設計担当の建築学科の徐准教授および施工業者の参列のもと執り行われた。建物は木造平屋1階建て延床面積46・2平方メートル。以前より若干増床されている。外観は白を基調とした洋風仕上げ。内部空間は会議ス



外観は洋風、室内は和風仕上げ

図書館と県民の集い
LCセンターから出展

LCセンターは12月14日(日)、桶川市民ホールで開催された「図書館と県民のつどい埼玉」の大学図書館展示に出展した。今回の展示では「エコ・ミュージアムへの招待」と題し、太陽光発電システム等をパネルにて紹介したほか、LCセン

ター所蔵の「ISO図書」より環境関連の専門書や解説書の展示、来場者参加企画として「エコクイズに挑戦!」を実施した。

来場者からは「自宅で太陽光発電を導入しているの参考になった」「施設を見学したい」などの声があった。大学図書館展示全体の来場者数は昨年度の倍となる約800名を記録し、大変な盛況ぶりであった。



本学の環境保全活動をパネルで紹介

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆神林 靖准教授(情報工学科)／出張先「ドイツ(3/11・3/16)／目的」第10回コンピュータグラフィックス理論と応用国際会議にて論文発表

◆藤田則夫参事(総務部)
◆木下孝二技術職員(情報工学科)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

◆高田昭二事務職員(就職支援課)
◆小西法行事務職員(就職支援課)
◆高田昭二事務職員(就職支援課)

春のオープンキャンパス
大学ってどんなところか見てみよう!
学科紹介・研究室ツアー
体験授業・個別進路相談など
3/28(土)

宮代町
宮代
193号



4300本の桜が咲き誇る宮代町

宮代町には、河川沿いや小中学校等の公共施設、東武動物公園など、総数約4300本の桜があります。中でも大落古利根川、中須用水、笠原沼落、単人堀川等の河川沿いにある桜は約840本、総延長は8キロメートルで、南北に長い宮代町の長さには相当します。また、毎年桜の咲く頃に、笠原小学校前の姫宮落川の桜並木の下で「桜市」を開催しています。今年の桜市の詳細は、広報みやしろ3月号や、町ホームページ等でご確認ください。美しい桜を眺めながら、宮代の春を満喫してみたい方が多いのではなか

長は8キロメートルで、南北に長い宮代町の長さには相当します。また、毎年桜の咲く頃に、笠原小学校前の姫宮落川の桜並木の下で「桜市」を開催しています。今年の桜市の詳細は、広報みやしろ3月号や、町ホームページ等でご確認ください。美しい桜を眺めながら、宮代の春を満喫してみたい方が多いのではなか

編集後記

卒業生諸君、学位取得おめでとう。ご卒業にあたり、江戸時代中・後期で米沢藩主だった上杉鷹山の言を紹介したい▼鷹山は節儉を励行し財政改革、新田開発などに努めたことで著名だ。施策のひとつ、大俵令(俵約を命じることを出すに当たって、自らの側近たちに対して、いくつかの説明をしている。以下はその一節である▼「竹は縦に割るべし。横に割るべからず。水は低い方へ流すべし。高い方へは流せるものではない」つまり「自然の道に従って物事を行うことが大切である」という意味になる▼なるほど、すべての物事にはこうすればこうなっていくという自然の筋道がある。だからこそ、俵約は「しやすいところへ力を注ぐべき」との指摘である▼卒業生諸君には、自然の筋道を大事にしたい。ただ、焦らず慌てず着実に歩んでもらいたい。ご健闘を祈念する。【信